

# トラック輸送情報（平成14年 8月分）

平成14年10月 日  
 国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課  
 担当：金子、荒木 内線28-315  
 直通 03-5253-8342  
 ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

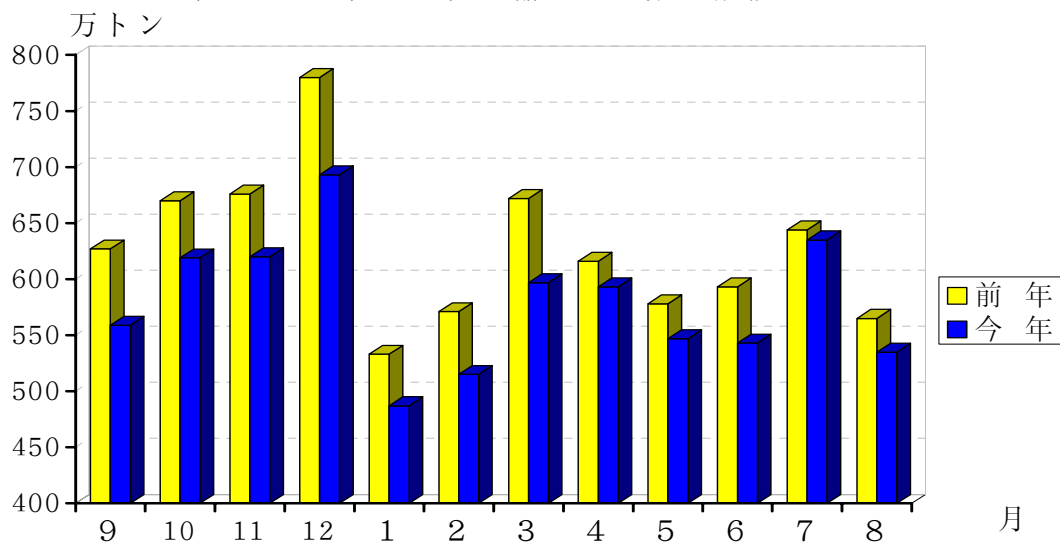
## 1. 特別積合せ貨物

### (1) 本月の輸送状況

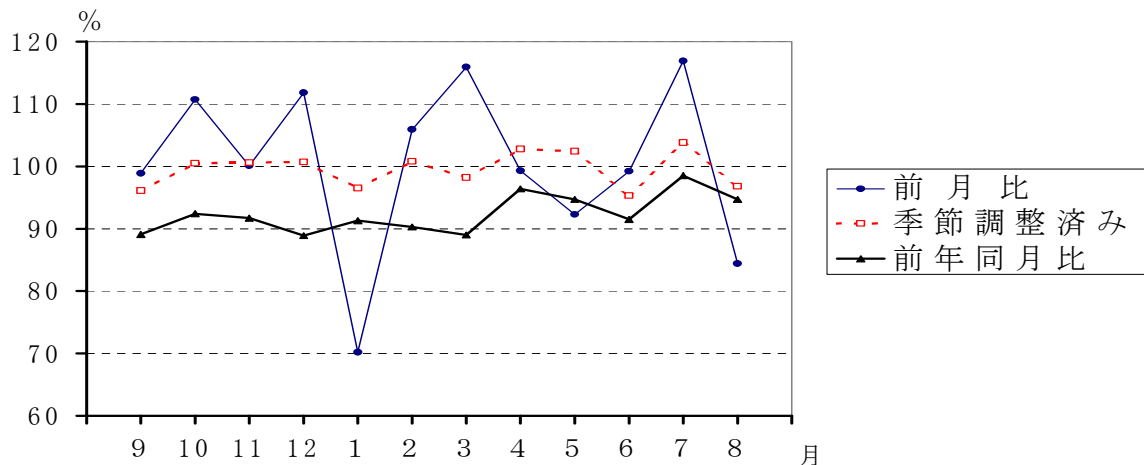
調査対象26社の本月の輸送量は5,354,671トンで、前年同月比 94.7%、前月比 84.4% (季節調整済み 96.8%) の実績であった。(図1-1、図1-2参照)

なお、平均稼働日数は、23.2日、稼働1日当たりの輸送量は230,805トンで、前年同月比 96.8%、前月比 92.3%となった。

(図1-1) 26社の輸送トン数の推移



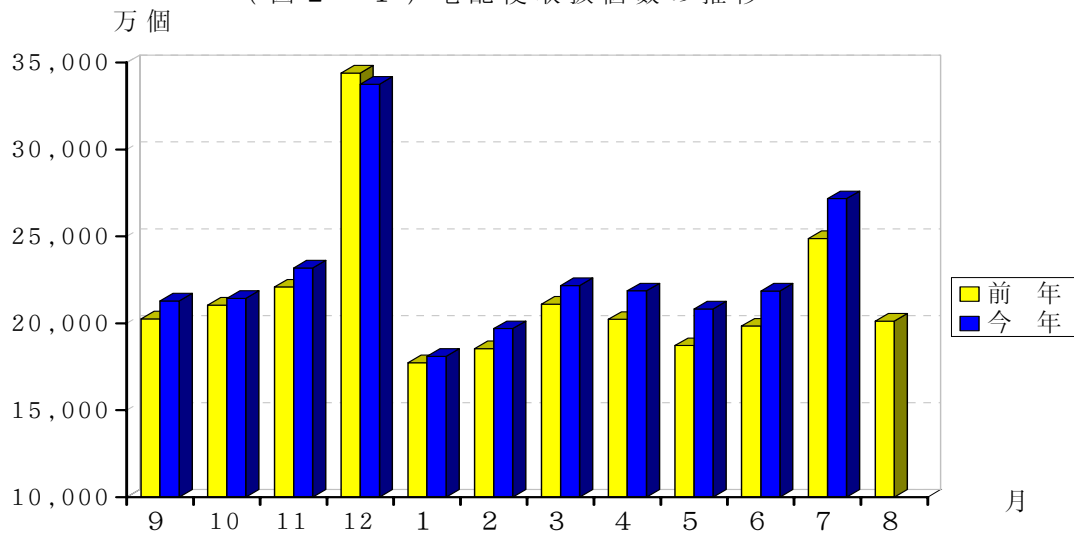
(図1-2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



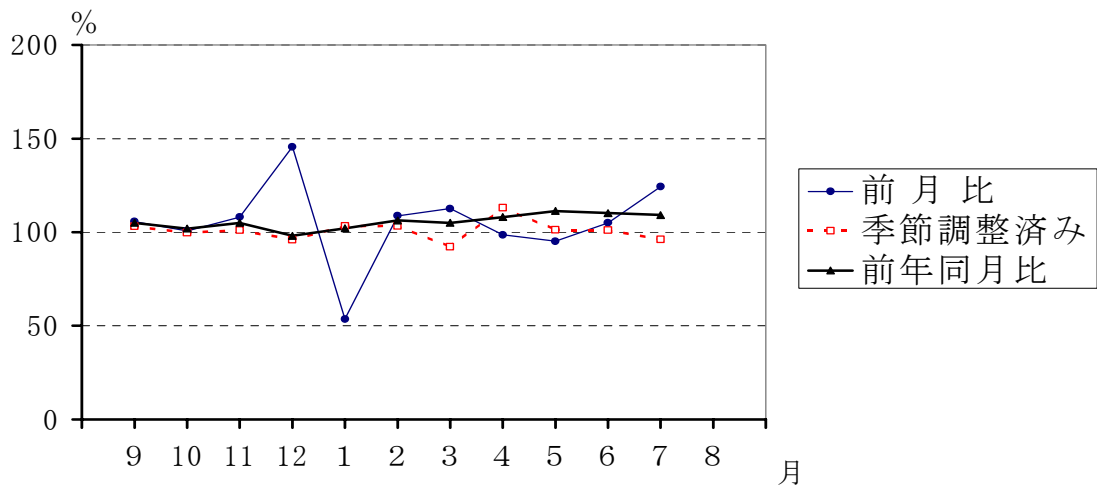
## (2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は271,763,932個であり、前年同月比109.2%、前月比124.3%（季節調整済み 96.1%）であった。（図2 - 1、図2 - 2参照）

（図2 - 1）宅配便取扱個数の推移



（図2 - 2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



## (3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は1日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約2.7万ト増加したため、前月比112.4%の実績となった。総輸送量について先月と比べ約92万ト増加したため、前月比116.9%の実績となった。宅配便についても約5313万個増加したため、前月比124.3%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は0.7日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約1.1万ト減少したため、前年同月比95.9%の実績となった。総輸送量について、約10万ト減少したため、前年同月比98.5%の実績となった。宅配便については、約2295万個増加したため、前年同月比109.2%の実績となった。

## (4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、中元期であったため、全ての品目において増加傾向にあった。中でも、その他が全国において、工場・生産地及び商社・問屋からの貨物増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、顕著な増減傾向は見られなかった。しかし、わずかながら、日用品が全国において、工場・生産地からの貨物減、不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	11	4	1	東北、関東	4, 8	
						青果物、畜産物	中国	4
	金属製品			12	7	1		
						電気製品、建設用金属製品	関東、近畿、中国	4, 7, 8
	機械	1	8	10	2			
						自動車部品、家電、農機具	関東、中部、近畿、中国	4
	化学工業品			13	8	1		
						塗料、、医薬品、紙、パルプ	関東、近畿	4, 7, 8
	繊維工業品			12	10			
					織物	関東、近畿	4, 8	
食料工業品	2	6	12	1				
					飲料	福岡	4	
日用品	2	2	16	1				
					一般貨物、身廻品、雑貨品	全国	8	
その他			8	8	5			
					宅配貨物	全国	8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		12	5				
						青果物、畜産物、魚介類	東北	4
	金属製品			14	6			
						建設用金属製品、工具類	関東、近畿、中国	4
	機械	1	1	15	3	1		
						機械部品	全国	4, 9
	化学工業品			1	14	7		
						塗料	大阪、中国	
						医薬品、合成樹脂	関東、中国	4, 7
繊維工業品			15	7				
					織物	関東、中部	4	
食料工業品	6	10	5					
					加工食品、飲料	関東、北陸信越	4	
日用品	4	7	9	1				
					一般貨物	全国	4	
その他			5	10	6			
					身廻品、雑貨品	全国	4, 9	
					宅配貨物	全国	2, 5	
					宅配貨物	全国	9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 880社 / 調査対象事業者数 1,100社）の輸送量は、前年同月比 98.0%、前月比 94.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	98.0%	100.2%	98.5%	96.4%	92.7%	92.7%	97.4%	103.2%	100.6%	97.4%	110.6%
前 月 比	94.4%	98.6%	93.7%	89.3%	97.7%	92.9%	90.6%	92.1%	95.1%	93.7%	95.2%

### (2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、お盆休みのため稼働日数が減った事、天候不順や公共工事の落ち込みによる農産品や土木建築関係資材の輸送減があった事により、対前月比98.6%となった。また、対前年同月比は100.2%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、農産物の収穫期に入るため、次月及び以降ともに輸送量の増加が見込まれる。
東北	本月の輸送は、野菜・果物の需要の拡大が見られたが、「穀物(米)」出荷の減少や、お盆により運送事業者及び荷主企業ともに休暇が多かった事から全体的に輸送量が減少となり、対前月比93.7%となった。また対前年同月比も98.5%と難しい状況である。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にある。
関東	本月の輸送は、季節的なもので「野菜・果物」の増加がみられたが、夏休みや盆休みによる稼働日数の減少のため、対前月比89.3%となった。全体的には景気の低迷もあり対前年同月比も96.4%と厳しい状況が続いている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。
北陸信越	本月の輸送は、一部に石炭の工場内移動や金属類の入港増により輸送トン数の増加が見られたが、多くの事業者では、夏期休暇・お盆休みによる稼働日数の減少により輸送量が減少した事により、対前月比97.7%となった。また、対前年同月比も92.7%と依然として厳しい状況である。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にある。
中部	本月の輸送は、季節的な需要減や荷主の夏期休暇等による影響から、各品目において輸送量が減少しており、対前月比92.9%となった。また、対前年同月比は92.7%と相変わらず厳しい状況が続いている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にあるが、厳しいものと思われる。
近畿	本月の輸送は、猛暑により「食料工業品」に一部輸送増が見られたものの、全体的にお盆時期による稼働率の低下により輸送量は減少し、対前月比90.6%であった。さらに、対前年同月比でも97.4%と減少しており、依然厳しい状況である。今後の輸送見通しは本月同様の水準でしばらく続くものと思われる。
中国	本月の輸送は、中元期のピークが過ぎた事、また、学校の夏休み・盆休みであるため、輸送量の感触は対前月比92.1%と減少傾向を示している。一方で建設関係用の砂利・砂・石材の輸送量を中心に増加した品目もあるため、対前年同月比では103.2%と増加傾向を示した。今後の輸送見通しは、季節需要の影響が小さくなるため、あまり変化しないと思われる。
四国	本月の輸送は、季節的要因により「穀物」「食料工業品」の輸送増があり、「揮発油」「取り合わせ品」は輸送減が見られた。「金属製品」「セメント」等、建設関係に需要増が見られたが、夏期休暇等による輸送減もあり、全体的には対前月比95.1%と減少した。また対前年同月比は100.6%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに上昇傾向にある。
九州	本月の輸送は、前月に対し全体的に輸送量が減少している。景気低迷はもとより、お盆休み及び台風の影響による稼働率の低下が輸送量の低下を招いているものと思われる。このため、対前月比は93.7%と減少した。また、対前年同月比も97.4%であった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともにわずかであるが上昇傾向にある。
沖縄	本月の輸送は、「野菜・果物(みかん)」の出荷シーズンを迎え、野菜・果物の輸入需要が増加した反面、引越需要が減少し、取り合わせ品の輸送が減少。また、学校が夏休みに入り、学校給食の配送も減少した事により、対前月比95.2%となったが、対前年同月比は110.6%と増加傾向であった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに上昇傾向にある。

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	1	0	0	0	0	0	2	3	0	7
	減	2	4	0	0	0	0	0	0	5	0	11
2. 野菜・果物	増	3	4	4	0	0	0	0	0	3	1	15
	減	1	0	2	2	0	0	0	0	1	0	6
3. その他の農産品	増	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	4
4. 畜産品	増	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4
	減	0	0	3	0	0	0	1	1	1	0	6
5. 水産品	増	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 木材	増	1	2	1	1	0	0	0	0	3	0	8
	減	5	2	1	2	0	0	1	0	1	0	12
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	2	1	0	3	0	0	3	0	3	0	12
	減	11	2	1	1	0	0	1	0	3	0	19
11. 工業用非金属鉱物	増	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	減	4	1	1	0	0	0	0	0	2	0	8
12. 鉄鋼	増	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	減	2	2	1	1	0	2	2	0	3	0	13
13. 非鉄金属	増	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	3	0	0	0	1	1	0	2	0	7
14. 金属製品	増	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	5
	減	2	1	1	1	0	1	0	0	2	1	9
15. 機械	増	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	5
	減	0	1	2	1	4	2	1	0	1	0	12
16. セメント	増	1	1	0	0	0	0	0	1	2	1	6
	減	1	2	0	3	0	1	0	0	2	0	9
17. その他の窯業品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3
	減	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	7

